



キキョウ

51編の端書きにあるように、預言者ナタンはあなたはヘト人ウリヤを剣にかけ、その妻を奪って自分の妻とした。ウリヤをアンモン人の剣で殺したのはあなただ。それゆえ、剣はとこしえにあなたの家から去らないであろう。あなたがわたしを侮り、ヘト人ウリヤの妻を奪って自分の妻としたからだ(サム下12:9)と、ダビデを叱責し、託宣を告げました。ダビデは わたしは主に罪を犯した と認め、ナタンは その主があなたの罪を取り除かれる。あなたは死の罰を免れる。しかし、このようなことをして主を甚だしく軽んじたのだから、生まれてくるあなたの子は必ず死ぬ(サム下12:14) と、赦しと、罪による悲劇の到来をも告げ、そのようになりました。王におもねず、王の過ちを指摘するのは勇気がいることでしょう。主はナタンをダビデのもとに遣わされた(サム下12:1) と、ナタンの行為は神の御心によると告げています。王を愛するとともに、主に忠実なナタンのおかげで、ダビデも正気に戻れたのです。51編はその後に捧げられたダビデの祈りの賛歌です。二連からなり、前半は罪からの清めを求める祈り、後半は償いの決意を述べる反省文のようです。

まず、詩人は あなたに、あなたのみわたしは罪を犯し(51:5) と神にのみ罪を告白し、赦しを求めています。詩人は神にのみ、今回の自身の罪を包み隠さず打ち明けているのです。それだけでなく、わたしは咎のうちに産み落とされ／母がわたしを身ごもったときも／わたしは罪のうちにあったのです(51:7) と、原罪を持つ人間であることも告白しています。ダビデは自分の悪事を隠そうとしましたが、神が求めておられることは、あなたは秘儀ではなくまことを望み／秘術を排して知恵を悟らせてくださいます(51:8) と、真実と知恵であると告白しています。次に興味深いのは ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください／わたしが清くなるように。わたしを洗ってください／雪よりも白くなるように(51:9) と、ヒソプという植物の枝で、「お祓い」のようなことをしていたという箇所です。ヒソプは清々しい香りがする植物だったのでしょうか。それと、「清い」を「雪よりも白い」と表現している点です。聖書は清さ、気高さの象徴として白色を用いてきました。清潔感を感じさせる色です。最近、人種差別撤廃を求める”Black lives matter”というデモ活動を目にします。肌の色の類似性から関連付けられて、また、色を象徴的に用いられてきた歴史から、偏見や差別を生んでいる現実に直面させられています。実体は、本来、象徴と何のかかわりもないのです。後半は詩人の将来への願いです。まず、新たにされることを願っています。神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。(1:12) 次に、神との関わりが続くことを願っています。御前からわたしを退けず／あなたの聖なる霊を取り上げないでください。(51:13)。そして、詩人が生き生きと喜び、自由に活動できるようにと願っています。御救いの喜びを再びわたしに味わわせ／自由の霊によって支えてください。(51:14) その後、詩人は神に償いを申し出ます。わたしはあなたの道を教えます／あなたに背いている者に／罪人が御もとに立ち帰るように。神よ、わたしの救いの神よ／流血の災いからわたしを救い出してください。恵みの御業をこの舌は喜び歌います。主よ、わたしの唇を開いてください／この口はあなたの賛美を歌います。(51:15) 悔い改めの道を伝え、救われた喜びを賛美すると約束しています。最も尊い捧げものは しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません(51:19) と、懺悔の告白を捧げた後に、雄牛を祭壇に捧げますと約束しています。「讚美歌21」134「神よ、われをあわれみ」は、16世紀のイギリス人ギボンズ(Orlando Gibbons 1583-1625)の曲に合わせ、51編を讚美歌改訂委員会がパラフレーズしました。それ以外にも14曲の関連讚美歌が収められています。参照 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-11-26>